

地球環境と語り

樋 口 淳

に取り組んできた。そこには、「神隠し」や「夢の知らせ」などの周知の話群に加え、「戦争体験」や「学校の怪談」などの、新しい話が次々に加えられていった。そのなかに「環境破壊を告げる民話」という話群がある。

日本各地に残された素朴な信仰と、それにまつわる伝承の語りは、知らず知らずのうちに、人間にとつて大切な環境を守つてきた。「地球環境と民話」というテーマは、一見奇抜に見えるが、そこには伝承の語りを考えるうえで本質的な問題が隠されている。管見によれば、環境を語る民話は以下の三つのレベルで考えられる。

1、直接的なメッセージを含んだ民話 —「公害を告げる河童」の場合—

「地球環境と民話」というテーマを考えるうえで、忘れることができないのが、児童文学学者で、傑出した民俗学の研究者でもある松谷みよ子の仕事である。彼女は、伝承の語りを聞く中で、従来「世間話」という範疇でとらえられながら、あまり手

河童は、水の神の零落した姿であるいわれる。日本の各地には、河童と人間の交渉を語る話が、さまざまに語り伝えられて

河童は、水がおどろしい」と訴える河童の声を聞く。不思議に思つて川（九頭竜川）を見に行くが、川は澄んで何の変わりもない。ところが河童は『もう住んでおられん』『あの川の水はお前さんらにもようないはずじや』と言つてくる。村人たちはおるさくなつて、邪険にあうかうようになる。すると、ある夜、河童たちは山奥に立ち去る。それから2年たち、村人たちは河童のことを忘れていたが、川下へ働きに行つた折、方言研究にやつて来た学生と知り合い、河童の話をする。その後一月ばかりして県から村長がよびだされる。川がカドミニウムに汚染されているという。汚染の事実の発見が、河童のことを見た学生に話したのがきつかけだと聞いて、村人たちは山へ登り河童に呼びかける。すると、霧の奥からかすかに答える声がした。『百年したらもどつてくるさかい、それまで川をきれいにしておいてくれえ』

いる。その多くは、河童が人に魚を届けてくれたり、傷薬の作り方を教えてくれたり、人間の役に立ってくれるのに、人間の側の不注意で、河童との交渉は断たれてしまう、というタイプの話である。この「公害を告げる河童」の話も、「人間の気づかぬ秘密を教えてくれる河童」と「河童の善意に無知な人間」という河童話の伝統的な構造を踏まえている。川や木には、水の精や木の精がすんでいて、精と人間との間には大切な約束があるのに、人間が自分の都合で約束をないがしろにして、自然との関係をこわしてしまった。こうした基本構造の話群に、「環境破壊」という新しい視点をこめて語る話者や、その話に耳を傾ける記録者が登場したということだろう。そこには、語りをとりまく環境の変化とともに、語り手たちと記録者たちの意識の変化があるに違いない。

これまでの記録では、「公害を告げる河童」のように環境の破壊を訴える直接的なメッセージを含んだ語りは多くない。しかし、現在のように生活「環境」が汚染されたり破壊されたりすることが、日常的になつてみると、この破壊に苦しんだり被害を受けた人たちの間から、これまでとは違ったメッセージ性の強い世間話や伝説化された話が聞かれるようになるのではないかと思われる。また、聞き手の側が意識的に「環境」に耳をすませれば、これまで聞こえてこなかつたタイプの話を拾い出すことも可能である。

松谷やかつおは、そうした優れた耳をもつた記録者であると

もいえるだろう。

2、生活・環境情報を持った民話

伝承の語りは、伝統社会における生活や環境についての情報を豊かに含んでいる。

この問題を考えるときに、まず浮かぶのは、遠藤登志子という優れた語り手の思い出である。彼女の語りの中には、忘れられつつある生活の細部が、じつに生き生きと息づいている。たとえば、彼女の語る「大歳の客」は、こんな風に語りはじめられる。

「むかし、むかし、それあつたと。ある里に、歳の暮だとゆつて、みんな一生懸命かせいでいたそだ。まあず年の暮といふのはせわしいもん、煤は掃かなんねえ、餅やつかなんねえ。山さいつて若松いただいてきて、門松たてなんねえ、障子は張り直しなんめえ。そうでまあ、長者どんの家では八つの竈にみんな火がへえつて、でかい囲炉裏には、かだ木はほんほんと燃えて、庭では若え者が餅いつくわ、上がり縁にはでかい伸し板おいて、婆さまから姉さまから餅いまるめて。神棚ではそれ、旦那どのが神棚かたして、次の日の用意しなんねえ。まあそのうちに雪は降つてくるわ、『そうれまあず雪の積もんねえうちにかたずける』と語つて、若い者でかい声でどなりつけるわ。おかげあまは、おかげあまで、姉さまから婆さまから、それゴンボは切つちやか、芋は煮えたか、ほれ明日のおつけの

用意はできたかとゆつて、わたわたわたわたと、あつちやあ跳ね、こつちやあ跳ね、まづまづ忙しい按配であつた。」

そうして働いているところへ、行き暮れて、乞食が訪ねてくる。「大歳の客」は全国各地で語られているが、これほど過去をぎつしり詰め込んだ語りは、ほかにないと思う。

伝承の語りは、いつもこのように豊かな世界を包摂するとはかぎらないが、優れた語りはからならず生活の細部を語りこんでいる。それは、糸つむぎや、機織、畠仕事のような技術であつたり、その日その日の食事や着る物であつたり、旅や年中行事や出稼ぎであつたりさまざまだが、いわば失われつある伝承の暮らしの記憶である。

それは、たいそう古ぼけていて、使い物にならないようにもみえるが、一方で、現在とは違った価値観や、時間・空間感覚を示してくれる。それは、我々の生きている世界を、もう一度見直す手がかりとなる「もう一つの世界観」であるように思われる。

我々の生活する近代市民社会は、二十世紀の終末をむかえたとき、一挙に加速して、ベルリンの壁まで破壊して、市場原理の一円支配と、グローバル・スタンダードの時代に突入したようになる。たしかに、それはそれで結構なことだが、人間同志の激しい競争のなかで忘れられかけてしまつたものの見直しや、時代を批判する眼が、どこにあるのかが気になる。環境と人間が、加速度的な進歩のなかで、調和と均衡を崩しかけたと

き、軌道修正をせまるる視点が必要である。伝統的な語りの世界に紡ぎ込まれた生活の細部は、人間と自然との穏やかなかかわりや、かつてのゆつたりとした時間の流れを思い起こさせてくれるのではないだろうか。

3. 構造としての自然と文化

民話の構造自体にも、「環境を考える契機」は含まれている。民話を研究する者なら誰でも知つてはいるところ、ウラジミール・プロップは「民話の形態学」のなかで、本格昔話の中核となる魔法昔話に言及し、そこにはたつた一つの構造しかないことを主張した。

プロップのこの主張を私流に言い換えるなら、「魔法昔話とは、主人公が他界に出かけていつて冒險を重ね、象徴的な死をくぐりぬけて、中心としての王国に帰還し、支配者となる物語」であるということになる。

これをさらに言い換えれば、中心とは「文化の領域」であり、他界とは「自然の領域」である。魔法昔話とは、衰退した文化から脱出した主人公が、自然のなかで自分をとりもどし、文化を活性化する物語である、とも読める。

「地球環境と民話」というコンテキストでいうのなら、物語の中心をなす文化はつねに周縁的な自然に取り囲まれており、自然との関係を失えば死滅する。この危機に瀕した中心に、周縁から訪れた主人公が、荒々しい自然のなかでの戦いを経て、

中心に新しい命をもたらすのが、「魔法昔話」なのである。

文化を活性化するのは、つねに荒々しい自然である。こうしてみれば、民話の構造自体に、「環境を考える契機」が深く組み込まれていることがわかる。

4、まとめ

人間は、本質的に環境を汚染しながら生きる存在である。伝統的な語りの世界でも、お爺さんは柴刈にいって里山の木々を伐り、お婆さんは洗濯に行って川を汚染している。かつて日本での生業の中心であつた農業も漁業も、環境の破壊なしにはなかつた。これは、日本だけではなく、世界中、人間の生活するところ何処にでも見られる問題である。

しかし、伝統的な社会にはおのずと共同体の規制があり、さまざまのリサイクルの試みが組み込まれていた。また、年中行事や人生儀礼のなかには環境の死を悼み、再生を祈る伝統が生かされてきた。民話の語りは、こうした野生と文化の思考をさまざまなレベルで伝えるものであろう。

地球規模で環境破壊が進む現在、地球のいたるところで伝承の儀礼と語りが失われつつあることは、決して偶然のことではない。環境を守る伝統的なシステムの存在が、忘れられつつあるのである。

(ひぐち・あつし／専修大学)

シンポジウム・地球環境と民話

幽霊マンシヨン

丸山 顯徳

一 課題

一九九四年から一九九六年までの三年間、六回にわたり「花園大学古典と民俗の会」の学生と比較民話研究会の会員を中心としたグループで奈良県吉野町の民話の総合調査を実施した。

その時の調査に協力頂いた花園大学の卒業生で、町の博物館学芸員をされている方から、初めて幽霊マンシヨンの話を聞いた。最初、この方は、奥さんからちらつと聞いただけの怪異話で、それほど深い内容ではなく、新しくマンシヨンを建設した時に幽霊が出現したという不思議な因縁話という程度であった。しかし、話を聞き進めていくうちに、民俗学で言う歴史伝承の一つ「家の盛衰」に分類される「異人殺しの話」であることが分かつてきた。しかもこの家族が殺人者になつていてるという奇妙な事件であった。したがつて、我々が刊行した『吉野町民間説話資料報告集』(名古屋大学国際開発研究科、一九九七年三月)には、人権問題にかかる話であることから、幽霊マンシヨンの話は、